

虚子記念文学館投句特選句・令和五年三月

稲畑廣太郎 選

若鮎の群れ水光る水香る

石川

伊東弥太郎

春分の日や午後四時は雨模様

兵庫

辻田あづき

開花待つ枝の勢ひや春日濃し

京都

山崎貴子

労ひの言葉束ねて黄水仙

兵庫

金田八江子

わかうどと交はす存問木の芽晴

兵庫

西村みどり

春泥へ忘れてきたる靴の跡

奈良

河村久美子

泥けむり立ちてどちやうの池ぬるむ

兵庫

小柴智子

水温む底で何やら謀りごと

奈良

好川忠延

吉野雛昨夜は座つていたやうな

奈良

豚々舎休庵

三月十一日弦の音空へ

兵庫

武田奈々

(青少年)

入選句・令和五年二月

心竹にまみゆる配慮あたたかし	石川	宮下末子	一条の瀬音はだれ野作りけり	兵庫	涌羅由美
芽柳の秘めたる命さりげなし	兵庫	高市敦之	雛壇の袖寄せ合ひぬ間柄	兵庫	山田翔太
山笑ふテレビポツンと一軒家	三重	松村咲子	はや群に遅るる一羽帰る鳥	大阪	多田羅紀子
木の芽もう足踏みできぬこの陽気	大阪	若林友子	誰がつけし優しき名前母子草	京都	西村やすし
漂ふも躓くもあり雛流し	大阪	立入宮子	春炬燵無為の子供にはたきかけ	大阪	西尾浩子
比良比叡伊吹六甲春の山	石川	辰巳昌彦	深々と戦車の轍斑雪	兵庫	武田優子
麗かや目眩する程青き空	兵庫	小川孝子	幾色も重ねて庭の梅椿	石川	辰巳葉流
松籟の木の芽の栞る月日かな	京都	杉森大介	待つだけといふ公魚の釣れるまで	兵庫	吉村玲子
往き往きて恋ふる古里西行忌	兵庫	槌橋眞美	チューリップ咲く先生の好きな色	兵庫	藤井啓子
島の春今年も一人街へ出る	三重	池本準一	汀子邸鎖されし庭の梅椿	香川	三宅久美子
あたたかき心の集ふ芦屋句座	石川	村上秀吾	荃立の忘れ去られし鉢一つ	兵庫	高橋純子
見覚えの反古より出づる雛かな	大阪	大橋明子	鶴塚の辺りもつとも臃かな	香川	真鍋孝子
遙かなる思ひ出飾る立ひひな	大阪	谷本房子	白梅に十万石の目覚めゆく	兵庫	中井陽子
蛇穴を出で落ちつかぬ山家かな	奈良	山口廣世	馥郁とあり言の葉も紅梅も	兵庫	岸川佐江
野遊や誰からとなく出る飴玉	大阪	窪田由紀子	大試験うちのめされてしまひけり	兵庫	池田雅かず
海光に生れしばかりの木の芽かな	兵庫	黒田千賀子	培ひし歴史尊し館の春	大阪	林 曜子
斑鳩の三塔巡り春を聴く	大阪	杉山千恵子	御出ませ汀子先生雛の句座	兵庫	岩水ひとみ
佛は雛の面輪に蘇る	兵庫	高野さち	追想の空は真青やミモザの黄	兵庫	小杉伸一路
水温む使ひこなせし農日誌	兵庫	齊木富子	白梅の輝き撥ぬる日向かな	香川	大山孝子
山巒の陰滲ませて霞む富士	東京	荒川ともゑ	思ひ出を次郎佐エ門雛に寄す	鳥取	椋 則子
虚子館に三月の風新しく	兵庫	平田 恵	手作りのピザ窯に火を木の芽風	兵庫	辻 桂湖
汀子恋ふ花の一つにミモザかな	兵庫	山之口倫子	血統書つきも参戦猫の恋	香川	奥村 里
ぎんねずの風櫛けづる猫柳	兵庫	上岡あきら	虚子館の新たな石碑に匂ふ梅	兵庫	美令
水温む新幹線の席僅か	兵庫	塚本武州	艶めけるものを選びて木の実植う	京都	前 悦子
さりさりと空のあを研ぎ木の芽風	岡山	石井宏幸	飯蛸のはちきれさうに炊き上がる	大阪	河辺さち子
斑野を光となりて翔ゆける	兵庫	中村恵美	くるくると猫ころころと雛あられ	大阪	須知香代子
はだれ野の見えて花巻着陸す	香川	葛原由起	一輪の赤き椿と見つめあふ	兵庫	池田文子
まちまちな音踏みならし斑雪ゆく	京都	木村直子	虚子館へ道すがらなる花見かな	兵庫	長安悦子
			春の雪振子時計の音高く	兵庫	田村恵津子

糸桜風の軽さにふみ初む	兵庫	玉手のり子	連翹の見守る別れ証書筒	神奈川	小林 心
客船の入港市章山笑ふ	兵庫	永沢達明	梅東風の句会に結城紬かな	神奈川	小堀公美子
乳母車動けば回る風車	奈良	堀ノ内和夫	師をしのぶ枝垂桜のやさしさに	滋賀	福島良枝
家郷よし日にきらきらと雪解水	香川	石川 浩	初花といふ初恋に似たるもの	香川	佐藤美沙子
轉や師のましまさぬ汀子邸	新潟	安原 葉	潦溢れ花屑列を成す	香川	藤田敦雄
とりどりの椿の盛り紡ぐ館	兵庫	奥田好子	汀子師の花の生涯館あふれ	大阪	徳岡美祢子
初桜少女今日より歌劇生	兵庫	二瓶美奈子	芦屋へと遠足気分めく車窓	兵庫	山本康子
むすびの地句碑へもたれぬ春柳	三重	水越晴子	やうやくに訪へし虚子館山笑ふ	兵庫	森岡喜恵子
風たてば庭ごと揺るる花ミモザ	奈良	芳林淳子	繰り返す漁協有線磯開	大阪	山田佳音
子の通る度ひなあられ減つてゆく	兵庫	ほりもとちか	懐かしむばかりのしだれ桜かな	香川	三好ようこ
小さくとも明かるき雛の間となりぬ	兵庫	三木雅子	岩肌に白き波濤や春の川	大阪	徳永由起子
従ふもしたたかな人黄水仙	兵庫	山崎渺美	夜桜の星を残して散りにけり	大阪	奥野千草
姦しや日の暮るるまで黄水仙	兵庫	伊藤秀子	土俵なきモンゴル相撲風光る	和歌山	中島紀生
園児の歌少しみだれて雛祭り	兵庫	道中義一	啓蟄の地べたに耳を押し当てて	兵庫	阿曾宏之
涅槃図に神も獣も鬼までも	兵庫	岡本やすし	蒲公英の絮追ひし土手母の声	兵庫	伊集院秀樹
黄水仙背丈伸ばして香を放つ	兵庫	入谷千恵子	引く波を追ひかけるやに桜貝	神奈川	金子三奈乃
島傾ぐ異教の里の黄水仙	兵庫	大西美知子	新しき朝新しきこと水温む	埼玉	土井洋子
雛納したる虚子館ふと淋し	兵庫	川村ひろみ	初桜これよりも師に祈る日々	神奈川	進藤剛至
芦屋川のたゆまぬ流れ春の鴨	兵庫	池田徳子			
母逝くやふはりふはりと白き蝶	兵庫	福田光博			
啓蟄や水道管の太きこと	兵庫	キートスばんじょうし			
君子蘭キャリアウーマン抱え行く	神奈川	齋藤苑子			
潮の香の仄かに交じり春の雷	兵庫	太平楽太郎			
球春のルパン三世墨盗む	兵庫	月あんぬ			
国宝の天守に俯瞰春の湖	滋賀	近江堇花			
碧空の白きつがひや春の鷹	愛知	小野 薫			
耳に目にやはらかきかな春障子	兵庫	恵島祥一郎			
海近き文学館や花楓	兵庫	比企博子			
旅立ちのためらひありし春に入る	静岡	桜 泰			